

地域医療等調査 地方行政等調査 地域環境等調査

特別委員会調査報告

平成20年3月定例会において設置された3つの特別委員会の調査が終了し、平成21年9月定例会に報告書を提出いたしましたので、ここにその概要を掲載いたします。

地域医療等調査 特別委員会最終報告 (報告書より抜粋)

当委員会では、「地域医療の確保について」を付議事件とし、関係者による研修や調査研究を行ってきたところであり、これらで当委員会の調査・研究活動の整理を行い、結果をとりまとめたので報告いたします。

○病診連携について
これまで病診連携については、那須地区医療圏内の中核病院である大田原赤十字病院が中心となり病診連携について推進してあります。

病診連携とは、文字どおり中核病院と開業医、診療所等との間でそれぞれの機能に応じて連携を行うことで、相互の役割・機能の連携が確立されることにより医療機能の効率化が図られ、初期、二次等の医療体制が整い、もって病診連携ネットワークが確立するものと思えます。

今後の医療体制を確保するため「かかりつけ医」の推進、病診連携ネットワークシステムへの参入等積極的に啓発していかねければなりません。

また、救急医療体制を確保するため救命救急センターの充実にも努めるほか、緊急時災害時の円滑な医療活動を可能とするため、総合医療情報システムの共有

の推進が必要と思われる。

最後に、地域医療に関しては、地域の中核病院を受診することが増えています。かかりつけ医を推進するため、医療機関の機能分担や受診方法等に係る市民の意識改革、医療機関利用者に対する適正な受診方法について周知し指導する必要があると

す。

○無医地区について
大田原市において唯一無医地区となつている須賀川地区について、以前当該地区に旧診療所の医師が同地区内に医院を開設し、地区内唯一の医師として医療活動を続けていましたが医師本人の高齢による病氣療養を理由に平成十九年五月末に閉院し、六月より無医地区となりました。

平成二十年六月に地域住民の病院等への通院アンケートの実施により市に対し要望書等が提出され、市の対応においても診療所設置は、地域住民の強い要望であり設置に向け努力していくことや、へき地医療を担うべき

地医療拠点病院である大田原赤十字病院の巡回診療や、患者を搬送する通院巡回自動車の運行など地域住民が安心して安全な医療が提供される体制の整備が急務であり、安心して生活できる環境づくりが必要であります。

○大田原赤十字病院の移転問題について

大田原赤十字病院は、今まで増築を繰り返し、医学、医療の急速な進歩と多様化する医療需要に対応するため診療体制の整備や高度医療機器の整備に努めてきましたが、敷地及び建物の狭隘や施設の老朽化等により今後の医療需要に対応することが困難な状況となり、那須地区医療圏の中核病院として施設、設備の充実や医療水準の向上を図るために新病院を整備するものです。

また、新病院は、がん診療に放射線治療機器やPET-CT、SPECT-CTなど高度医療機器の導入や救命救急センター施設内に夜間診療所の設置、産科病棟と小児科病棟を併設した周産期医療センターの設置、地域災害時の屋上ヘリポート、へき地巡回診療等中核病院として地域の医療需要に対応することができるようになります。

このようことから、財政支援等については、県北関係九市町が支援することになりますが、利用率などを考慮しても那須地域の三市町が中心となり問題解決に向け積極的に対応していかねければなりません。

また、医療提供体制の整備や適正化が重要ですが、今後、行政を主体に「使う側の市民」への指導や市民の適正利用の意識改革等が必要であります。

地方行政等調査 特別委員会最終報告 (報告書より抜粋)

これまで、当委員会では、広域行政及び広域市町との連携で行われている事項について検討し、他市町との文化交流(那須地区芸術祭、那須地区郷土芸能フェスティバル)や那須塩原市と共同で運営している那須野が原ハーモニホールについて調査、研究を行ってまいりました。

当委員会では、那須地区郷土芸能フェスティバル及び那須野が原ハーモニホールのパイプオルガン設置について提言いたします。

○那須地区郷土芸能フェスティバルについて

郷土芸能の多くは、祭礼の際に奉納されるものであり、普段はなかなか見ることはできません。信仰や生活の中から生まれた郷土芸能は、後継者不足という問題も抱えている現状であり、一人ひとりに郷土芸能を認識してもらふことや、伝承者を育成するためにも、披露する場である郷土芸能フェスティバルの役割は大きなものがあると思えます。

黒羽地区での開催では、くろばね葉陽花まつりと同時期に開催している実績があるように、イベントとの同時開催について